

子育てアドバイザー（ラジオパーソナリティ）金子耕式氏が

保護者に贈る とっておきの話

子育てトーク No. 14



◆◆◆近い将来の目標を立ててあげる◆◆◆

子どもは大人とちがい、時間の観念が未発達です。だから遠い将来のことを考えて行動することは、なかなかできません。「ねえ、あとどのくらい?」「まだかなー」「もういいかなー」などという言葉子どもたちはよく口にします。人生経験が少ない子どもにはものごとの順序や先行きが見えないので、とにかく時間が長く感じられるのです。一方、経験豊かな親たちは、「将来のために今からしっかり勉強しなきゃだめよ」などと言うのですが、子どもたちにはピンと来ません。だから、もっと近い将来の目標を立ててあげることが必要なのです。

例えば、朝顔の種を蒔いて育てることを想像してみてください。これは実際にあった話なんです。ある女の子が一日も早く花を咲かせたくて、せっかく伸び始めたツルを毎朝指で引っ張ったそうです。そして、ついに力を入れすぎて途中から切れてしまいました。それはそれで彼女にとって良い勉強になったわけですが、もし、その子の親がこんなふうに言っていたらどうだったでしょうか。「さあ、種を蒔いたから毎朝少しだけ水をかけてごらん。一体どんな芽が出てくるだろうね。」そして芽が出て来たら、今度はこう言うんです。

「わー、芽が出たね! それじゃあ、ツルが巻き付くように棒を立ててあげようね。毎朝、何センチになったか計ってカレンダーにつけてごらん。」これはほんの一例ですが、何であれこんな風に近い将来の目標を立ててあげれば、退屈せずに待つことができるのです。



◆◆◆楽しいことも辛いことも共有すること ◆◆◆

子どもたちと時間と感動を共有することで、豊かな親子関係が生まれ、良い子育てに必要な土台が築かれるわけですが、時間と感動の共有というのは、楽しいことや嬉しいことばかりとは限りません。私が言う感動の共有とは、楽しいことだけでなく、辛いことも、苦しいことも、時には悲しいことでも一緒に心を振るわせることを言っているのです。

先日、私の講演会に来られたあるお父さんが、それを具体的に表す、とても興味深い話をしてくださいました。「金子さん、聞いてください。実は、去年の夏に親子で山登りをしてものすごい時間と感動の共有をしたんです。小学3年生のうちの息子は、高い山に登るのが初めてだったので、前日の夜はなかなか寝付けないくらい興奮していました。翌朝、山の中腹までは車で行って、駐車場に車を停めると、そこからはいよいよ頂上を目指して登山道を上り始めました。しばらくするときれいな花やチョウチョが出て来て、息子は大喜びでした。でも、途中から急に道が険しくなり、霧も立ちこめて来て、景色はまったく見えなくなりました。僕たちは、ひたすら上り続けるしかありませんでした。息子は、疲れたとか、もう歩けないとか、弱音を吐き出しました。それでも、なんとか励まして4時間くらいかけて、ついに頂上にたどり着きました。そうしたら、突然霧が晴れて、目の前に高山植物が咲き乱れていました。とにかく、山登りをして辛いことも嬉しいことも沢山共有したんです。で、夏休みが終わりしばらくした頃、息子が書いた「将来の夢」という作文を見つけました。読んでみるとこう書かれていたんです。『夏休みにお父さんと初めて山登りをしました。最初のうちは天気がよくて・・・でも途中から霧で何も見えなくなって雨も降って来ました。僕はとても心配になりました。でも、お父さんの言うことを信じて上り続けました。すると突然霧が晴れて、頂上にたどり着きました。そこにはきれいな花がいっぱい咲いていました。ぼくはお父さんとそこでおにぎりを食べました。夏休みでいちばん楽しい思い出です。』って書いてあったんです。しかもその作文の最後には『僕の将来の夢は登山家になることです』なんて書いてあったんですよ!!」



この紙面は、下府中小学校PTA家庭教育講座として、連載をいただいています。